

自然溢れる東富山で農村生活体験

松原市立松原第5中学校3年生と地元農家との交流

5月30日・31日に、東富山地域の農家10戸(三ツ又3戸、大屋敷3戸、片魚4戸)が大府府松原市の松原第5中学校の3年生40人の農村生活体験を受け入れました。この交流は平成19年度から始まり、今年で5回目となります。

◆ようこそ東富山へ

昼過ぎ、あいにくの雨模様になってしまいました。東富山地域に松原市立松原第5中学校の生徒たちが到着。この日待ち望んでいた受入農家の皆さんと初顔合わせとなりました。入村式では、地元を代表して三ツ又のユズ農家林和哉さんから「短い時間ですが我が家だと思ってお過ごしください」と歓迎の言葉が述べられ、式の後、各々が受け入れ先の農家の下へ。生徒たちが各家庭に分かれ、早速芋ほりや魚釣りなどの体験をし、夜には蛍を見に行った家庭も。生徒たちの2日間の農村生活体験が幕をあげました。

◆農村での体験

翌日も受入家庭ごとにさまざまな体験が行われ、えんどう豆の収穫、まき割りなど生徒たちも初めての体験に夢中になっていました。また、三ツ又での少し早めの川遊びでは冷たい水にはしゃぎながら、美しい自然を満喫していました。

昼ごはんは、地区ごとに協力して準備が行われました。集会所の前には、男の子たちにより、竹を使った流しそうめん台が組み立てられ、「この子は筋がええなあ」と褒められた生徒は嬉しそうにしています。屋外に用意された机には、女の子た



ちが腕によりをかけてつくったおいしい料理がところ狭しと並べられ、口に頬張った子どもたちはおいしい！と満足げな笑みを浮かべていました。この農村体験を通じ、東富山地域の美しい自然や温かい人柄と触れ合う中で、生徒の皆さんは忘れられない多くのことを学びました。

◆もうお別れ

2日間という短い時間はあっという間に過ぎ、お別れのときがきました。全員での記念撮影を終えると、生徒らはお世話になった受入農家に歩み寄り、お別れの言葉を交わしていました。農家からは「毎年のことやけど分かれるときはたまらん」「孫が帰ってきたみたいで嬉しかったのにまた寂しくなる」と寂しそうなお話。生徒も「短かったけど楽しかった、もっとここに居たかった」と涙を流す子もおり、ともに早すぎる別れを惜しんでいました。

◆また来てね!

この受入れを通じて、東富山地域の皆さんが「この地域の良さをあらためて実感できた」と楽しそうに生徒たちと触れ合っている姿がとても印象的でした。今回の体験でできた思い出は、生徒たちだけでなく地域の皆さんにとってもかけがえのない宝物となることでしょう。

子どもたちが大人になり、またひよつこりと顔を見せにきてくれることを楽しみにしながら、このような取り組みが、都市部と地域とを繋げる懸け橋になっていくことを感じたいと感じた2日間でした。

